

平成 29 年度 国際規格・認証等に関する調査について

1 調査目的

現在、地方創生やT P P等を背景に農業や農業関係高等学校への関心が高まっている。また、農林水産業骨太方針実行プロジェクトチームは、農政新時代を切り拓くために、我が国の農業の競争力強化のための基盤として、規格・認証・知財について戦略的に進めるプロジェクトに取り組んでいる。今後、農林水産業及び食品産業については、国内市場を念頭においた思考から、世界市場も視野に入れた意識改革を図る必要がある。

そこで、各校における規格・認証等に関する取組と方向性に関する調査を行い、全国の農業関係高等学校における取組と課題について、現状を把握するとともに推進上の課題や解決に向け、関係機関への要請活動の資料とすることを目的にアンケートを実施した。

2 対象

農業科又は総合学科を設置している高等学校校から回収があった。(336校)

3 アンケート項目

1 設置学科

(1) 農業科のみ	(2) 他学科併設校	(3) 総合学科
113	159	64

2 G A P (農業生産工程管理) 認証の施策について (※G A Pの取得…認証を得る。)

(1) 各校の取組について

①取得している	②取得に向け検討している。	③取得する方向で検討しているが、進んでいない。	④取得する前に、G A Pについての知識・理解を授業等で行う。	⑤取得や学習について次年度は取り組む予定はない。
8	51	60	112	105

「アンケートの結果の解析」

G A P認証をとる、もしくはG A P教育をすると回答した学校は、230校で全体の69%であり、各学校とも肯定的に取り組んでいる。

(1) で、①・②を選択した (59校) 場合の設問。

1) 学校内の対応 (取組体制) について

ア 学 科	イ プロジェクトチーム	ウ そ の 他
41	9	8

2)

単独学科	34
複数学科	16

3)

プロジェクト	18
学校農業クラブ	2
その他	7

「アンケートの結果と解析」

各学校、授業として行っているため、学科で取り組むところが多い。また、その他では、取得を考えているが、予算面、施設面等で見通しが立たず、検討しているという回答が多い。

4) GAPを認証するための学習科目名

野菜	18	総合実習	16	農業と環境	15
作物	13	課題研究	10	果樹	8
農業経営	6	畜産	2	食品流通	2
食品製造、グリーンライフ、園芸作物、生産工程管理、栽培系、農業全般、検討中					各1

「アンケートの結果と解析」

GAP認証をとる科目の傾向は、栽培（実習）が伴う科目が多い。

5) GAP認証を取る予定品目数及び品目名

品目数	学校数	品目（種類）	学校数
1	19	コメ	17
2	16	トマト	13
3以上	5	メロン	5
未定	2	ブドウ・茶・サツマイモ	各3
		ネギ・トウモロコシ・モモ・バレイショ・ミカン・ キュウリ・ナシ・イチゴ・未定	各2
		タマネギ・ダイズ・ニンニク・ハウレンソウ・ カリフラワー・リンゴ・ジャム・ソバ・ジネンジョ・ キャベツ・カキ・セロリ・スダチ・ゴボウ・	各1

「アンケートの結果と解析」

各学校とも地域特産物や農場の特性を利用して、認証を取っている。

(1) で③「取得する方向で検討しているが、進んでいない。」を選択したなかで、現状の問題点と方向性について、回答してください。

- ・GAPに対する、知識不足と施設的に可能かどうか検証及び教員研修を行ってから目指す。
- ・将来的に取得する方向で考えているが、審査の費用、取得のための整備に関わる費用の捻出が困難である。・「Asia GAP」取得を目指す。・「やまなしGAP」は経費がかからない為、取得を考えている。・農場予算とスタッフの不足。・予算やそのための支援がはっきりしない。・現在、資料等を参考に認証に向けて取り組んでいるが進んでいない。・経費の確保や取得に向けた取組の進め方を検討している。・施設面で現在でも老朽化でなかなか施設修繕がなされないので、取得・認証は厳しいと考える。・県の担当者が内容を理解していない感があり、取り組み方が分からない。・学科、品目の絞り込みができていない。

「アンケートの結果と解析」

GAPに対し、教員の知識不足、認証までの予算及び取得後の費用への不安が圧倒的意見であった。一方、取得するためには、施設・設備の老朽化を抱えていて、改修や修繕が必要であるという意見も多い。また、GAPの認証費用が高いため、県独自のGAPなど各校工夫と特色化を図って取り組んでいる。

(1) で④「取得する前に、GAPについての知識・理解を授業等で行う。」を回答したなかで、GAPの内容をどの科目で実施するか、回答してください。

農業と環境	38	野菜	19	食品流通	12
農業経営	19	農業経済	10	果樹	8
総合実習	8	畜産	8	作物	6
草花	5	課題研究	4	食品製造	2
農業情報処理・植物バイオテクノロジー・生物活用・グリーンライフ・栽培基礎・ 栽培演習・農業科目全般・生産系科目・栽培系科目・学校設定科目					各1

「アンケートの結果と解析」

GAP教育では、認証と違い、知識・理解を身に付けさせることから、農業と環境、農業経営、食品流通等座学で行う科目の回答も多い。

(1) で⑤「取得や学習について次年度は取り組む予定はない。」と回答したなかで、その理由や今後の展望について、回答してください。

- ・GAPに対応するための基盤が整っていない。・取得及び維持のための予算が厳しい。・学科が廃止となる予定である。取得後の維持費が非常に難しい・組織的な計画が不可能である。・社会が、GAP認証の方向に進んでいる事は理解できるが、具体的方策が見えてこない。・SGHやエネルギー教育等研究指定校となっているため、これ以上の取組は校務に支障が出る恐れがある。・授業展開において十分な時間確保が難しい。

「アンケートの結果と解析」

GAPを行う予定がないという回答では、「GAPの意義が見えない。」「組織的な対応が厳しい。」「取組が多すぎて校務に支障がある」「総合学科である」などの回答が多い。

(2) GAPを取得した、もしくは取得するための費用についてどこが負担しますか。

(上記2(1)で①から③に回答した学校のみ回答)

① 全額学校が負担	② 全額行政機関 (教育委員会等) が負担	③ 学校と行政機関が 一部ずつ負担	④その他
21	22	20	44

「アンケートの結果と解析」

各校、今のところ、費用をどこから捻出するか、予算面で苦慮している。予算の目途が立てば、取得する学校数が増える可能性がある。

(3) GAP取得に関わる研修について

実施する	実施しない	検討中
66	15	62

「アンケートの結果と解析」

「実施する」「検討中」が圧倒的な回答であることから、各校取得にあたり、教員の研修の必要性をあることを認識している。一方、「実施しない」という回答は、費用及び時間の面で実施したくてもできないという実情があることが考えられる。

(4) (3) で「実施する」と回答した学校への質問

「GAPに関する研修を実施する場合の費用負担についてどこが負担するかお答えください。」

① 全額学校が負担	②全額行政機関 (教育委員会等) が負担	③ 学校と行政機関が 一部ずつ負担	④その他
23	21	16	28

「アンケートの結果と解析」

研修費用については、学校予算、行政からの予算と各県での取組の差がある。一方、その他では、どこから捻出するかを検討している学校も多く、今後情報を共有していくがある。

(5) GAP取得した場合の効果について該当するものをお答えください。(複数選択可)

① 農産物の信頼性が高まる。	110
② より品質の高い商品を栽培できる。	26
③ 栽培した農産物をよりPRできる。	56

④ 学校のPRとなり、生徒増が見込まれることや地域の生産品として需要が高まる。※	27
⑤ 生徒や教員の意識が高まる。	73
⑥ JAと連携し、規模拡大ができる。	4
⑦ 生徒の学習内容が高まる。	39
⑧ 生徒の農業に対する見方や考え方が変容する。	45
⑨ 農業教育が発展する。	17
⑩ その他	1

※アンケートの設問に④が二つあったため、その項目を一本化した。

「アンケートの回答と解析」

GAPの導入の大きな目的である「農産物への信頼性」アンケート結果の3割の学校が回答している。次に生徒や教員の意識が高まると回答している学校が多いことは、農業高校全体の底上げに結び付くのではないかと考えられる。

(6) GAP取得に当たっての問題点や課題点に該当するものをお答えください。(複数選択可)

① 取得する費用がない。	93
② 学校の施設・設備に課題がある。	78
③ 圃場の整備に課題がある。	30
④ 勉強会の費用や時間がない。	22
⑤ 新たな取組を導入する余裕がない。	24
⑥ その他	10

「アンケートの回答と解析」

GAPを取得したいが、壁となっているものは、「費用」「施設・設備」「時間(人の動き)」であることが結果から分かる。この問題や課題を解決することでGAPを広く進めて、取り組めるのではないかと考えられる。

3 HACCP(食品安全管理)の学習への取組についてお答えください。

(1) 取り組んでいる。	(2) 取り組みに向け、検討している。	(3) 取り組む方向で検討しているが、進んでいない。	(4) 取り組んでいない。
34	31	68	202

4 JAS制度(日本農林規格)の取組についてお答えください。

(1) 取り組んでいる。	(2) 取り組みに向け、検討している。	(3) 取り組む方向で検討しているが、進んでいない。	(4) 取り組んでいない。
28	31	68	202

5 GI(地理的表示保護制度)の取組についてお答えください。

(1) 取り組んでいる。	(2) 取り組みに向け、検討している。	(3) 取り組む方向で検討しているが、進んでいない。	(4) 取り組んでいない。
3	9	12	311

「アンケートの回答と解析」

GAP導入のアンケートが主体であったので、HACCP、JAS、GIについては、取組状況だけの設問であったが、どの学校も取り組んでいないが圧倒的な回答で、GAPを進めていくためには、その他の取組は厳しいと考えられる。

6 今後、GAP・HACCP・JAS・GIに取り組んでいく上で、教育委員会及び関係省庁からの支援として希望したいことがあれば御記入ください。

- ・経費に関わる予算を長期間、継続して確保をして欲しい。
- ・申請の予算及び研修会をお願いしたい。
- ・人員の配置措置や職員の加配願いたい。
- ・農場の歳入を各校で使うことができないので、取得に関わる経費の100%を助成してもらうことが必要。
- ・施設設備の改築や新築の支援。
- ・学校専属でGAPをする指導員派遣。
- ・教科書で扱う内容の検討。

「アンケートの回答と解析」

多くの学校が、予算面、施設面への要望であったが、学習として進めていくためには、「教科書で扱う内容」の意見のように、何を教え、どのように定着させるのかを示して欲しいという意見も少数あった。行政として、農水部、教育委員会の横のつながりも必要ではないか。

7 おわりに

GAP教育の導入が急速に持ち上がり、本協会が各学校の対応や今後の進め方について、詳しい状況を把握するために今回初めて調査を行った。GAP教育を取る（認証を得る）かする（知識・理解の教育）かの判断以前に教員の対応差に大きな開きがあったことが言える。GAPを取る（認証を得る）学校は、全体の17.5%、取得をしたいが、さまざまな課題があり、認証を取るに至らないが、37.7%、と肯定的に進めている学校が半分である。また、認証を得たいが、予算面や都道府県からの対応がない中で、学校が先走って取り組むことはできないと答えている学校も多い。今後、GAP教育に取り組んでいくためにも、本協会が各県や各校の声を吸い上げ、全国的な取り組みとともにGAP教育をとおして、農業の発展につなげていく。